

第三部（質疑応答）

司会：村田 尚應（労働情報センター事務局長）

○司会者 それでは、まず初めに、第1部の松中さんにご質問です。既存の旅行商品やサービス、あるいは旅行のいわゆるインフラストラクチャーの中で、不自由にお感じになった点があれば、ご自身のことでも結構ですし、お聞きになった話でも結構です。そういう事例があれば教えてください。

○松中 例えば、僕の場合はゲイなので、男性とおつき合いをしたり、一緒に旅行することが多いのですが、例えば、カミングアウトしていないときには、なぜこの2人が一緒に行くんだろ的な視線はすごく感じました。兄弟のふりしているけれども、名字は違うとか、そういうことは大前提ではあったんですが、そこも吹っ切れて、だれも知っている人のいなさそうな海外に行っても、気を使ってくださってなのか、男性同士2人だから、当たり前のようにベッドが離れていたりします。結構高いお金を出して、年に1回のアニバーサリーで行ったのに、キングサイズのベッドを頼んだはずなのに、みたいなことはありました。なので、男性同士でも、恋人どうし同じベッドで寝たいという方もいる。男性同士、女性同士だけではなく、トランスジェンダーの場合は、例えば、お手洗いとか、お風呂とか、グループ旅行の場合は、男女で分かれていることがすごく多いので、そこになかなかはまらない方々が苦労するというのは、聞いたことはあります。

あとは最近多いのは、プライドパレードが世界じゅうで行われています。日本だとまだ権利の主張だったり、LGBTのことを知ってもらおうという色合いが濃いんですが、アメリカとか、オーストラリアやヨーロッパはもうお祭りになっているので、それめがけていくという人たちがすごく多くて、そこにはグローバルにいろいろなところからLGBTの人が集まるので、1年に1回そういうところに行くときのプライドパレードパッケージみたいなのは、海外の旅行会社さんはいっぱい出しているかなという感じですね。

○司会者 ありがとうございます。ぜひそういう商品の企画を、と思いますが、今度は、ボーダーツーリズムのお話に移ります。やはり採算がちゃんととれているかどうか、気になりますよね。この企画がずっと続いていくためにも必要なことだと思います。その点はいかがでしょう。

○花松 採算に関しては、非常に重要な問題でして、今までやった2回の実例でいうと、若干補助金のようなものを投入しておりますが、それがなくなったときに、本当にちゃん

とペイするのは、非常に重要な問題だと思っています。

例えば、福岡から釜山に1泊2日で行くなら1万円ちょっとで行けてしまうところを、対馬を経由することによって、3万や4万円になるのだとすれば、やはり値段的には全然魅力がないわけです。普通の海外旅行にしても、通常は往復チケットでだいぶ安くなるんですが、我々が考えているボーダーツーリズムというのは、だいたい1方向ですので、必然的に高くならざるを得ないという部分もあります。

ただ、2回目の例で、あくまでマニアックな方々ではあっても、6万円、7万円、8万円払って来てくれる人がいることはわかっています。もちろんそういう層がどれぐらいいるかという問題は大きいんですが、そういう方々を集めてツアーをつくることは可能性はゼロではないだろうと。しかも、こういう積み重ねをいくつか継続してやることによって、知名度と魅力を売り込むことによって、地域のほうからいろいろと盛り上がり期待しつつ人々をふやしていけば、対馬と釜山においては何とかなるのではないかとと思っています。

現状では、おつき合いいただいている、例えば2回目のモニターツアーをやっていた近畿日本ツーリストさんからは、もうモニターツアーではなく普通の観光商品としていけると判断していただいているので、もうじき通常の商品に移行できるレベルになってきたかなと私は考えております。

○司会者 今度はまたもとに戻って松中さんです。ご自身含めて、LGBTの方が職場で働きづらいと感じることや、不当な扱いを受けたということがあればお聞かせください。あわせてLGBTではない人たちに、どのような理解や行動を望んでいますか。

○松中 僕が聞いた話では、トランスジェンダーの方で、もともと男性の体で会社に入られてから女性に移行したとき、それまで営業職だったのを、本当の女性の姿に近い形ではないという判断で営業職から外されたことがありました。それに対して、働いていらっしゃる方が不当だと訴えましたが、結構昔だったので、会社側としては利益に反するという判断をし、結局その方は会社を辞められたというケースはあります。

ただ、トランスジェンダーの事例はすぐ目にみえやすいんですが、やはりLGBTの働きやすさでいうと、なかなか目にみえにくいところが多いんです。というのは、こちら側がカミングアウトしていない場合、いないものとされていろいろなことが進んでいくので、差別的な発言や嘲笑とか、いろいろなことが自分のすぐ横で行われていて、自分は当事者なので反論したいけれどもバレてしまうかもしれないという負のサイクルがあったり

します。そういうことでチームとの信頼関係が築きにくい、というのがLGBTではすごく多い。

仕事をきちんとできればプライベートは関係ないと結構言われますが、日本の会社って、仕事とプライベートの関係が密接にかかわっていて、例えば気軽に「この週末どうしていたの？」という話が普通に会話に出てきても、LGBTの人たちは、全部うそをついたり、カバーしたりする。自分がバレないことにとっても気を使っているんで、アメリカの調査だと、カミングアウトしている人としない人の仕事の効率が3割ぐらい違うといわれているぐらいです。なので、いろいろなチームの方と仲よくなって仕事に臨みたいけれど、当事者側でもどこか壁をつくってしまうし、チーム側でも、あまり心を開いてくれないと感じ、何となくうまくいかない状況が起きてしまう。

ウェルカミングアウトの話ですが、当事者も全員が全員カミングアウトしたいと思うわけでもありません。一人一人、会社生活以外にもいろいろな社会をもっているんで、例えば両親や家族にまだ話していないから会社ではいいたくないとか、その逆もあります。言ったことでリスクを負ってしまうこともあるかもしれないので、完全にカミングアウトを推奨はしないし、それは選択だと思うのです。

ただ、もしカミングアウトが選べる状況だったら、選びたいという人はいると思いますから、選びたくなるような会社の雰囲気みたいなものは大事です。例えばこの講演に行ったことを職場でちらっとお話しただけだけでも違うでしょうし、LGBTのあかしであるレインボーフラッグを机のところにぺたっと貼ったり、「I'm a Ally」というステッカーみたいなものを貼っておいて、自分はLGBT全然OKですよということを表明していただくような活動があるかなとは思いますが。

○司会者 今度はまた花松さんに移ります。対馬の行政や企業が、実際に受け入れに向けてどのような取り組みをしているのか。今後、どういう計画があるのか、受け入れ体制整備に向けた動きについてお話をいただきたいと思います。

○花松 行政といった場合に注意しなければいけないのは、対馬はかなり大きい島であることです。もともと5つの町が合併しており、中心部の厳原というところに市役所をはじめ行政機関がほぼすべて集まっていますが、厳原に住んでいる人と、一番北部の比田勝、上対馬と呼ばれている人たちの意識が、全然違うんです。どう違うかということ、受け入れ体制の問題についても、韓国人をお客さんとして受け入れて、対馬の糧にしていこうと本

気で考えているのは、上対馬の方々です。厳原のほうは、もちろん考えてはいますが、韓国人の方々に来てもらえなくなったとしても、南や東をみて、東京や福岡から日本人が来れば、それでいいじゃないかとどこかで思っている節がある。これが対馬のかなり大きな特徴です。

それから2つ目、民間はどうか。現状では対馬内の企業が韓国人や日本人の受け入れに関して、投資をして頑張るといったことはなかなかみえにくいです。みえにくい理由は幾つかあります。一つはもともと過疎化で人口が減少していて、対馬島内でもなかなかやっついていけないという面。もう一つは、韓国人の受け入れについては、何があるかわからないことです。急に来なくなってしまう恐怖感をすごくもっているのです。投資をしてお土産物屋やレストラン、ホテルをつくらうということに関して、非常に躊躇します。観光業だけではなく、それ以外の、例えば林業とか漁業もそうですし、やはり対馬に投資をして、対馬で生きていくんだという気概をもっている企業はだんだんいなくなっているというのが現状です。これは日本の過疎地の一番深刻なケースの一つとして考えればおわかりになるかと思いますが、それに対して、今問題になっているのが、例えば韓国の資本が入ってきてホテルを建てるとか、あるいは山を買って、森林伐採をする、これに対して韓国に乗っ取られるのではと報道されることです。私からみれば、対馬の企業、あるいは日本の企業が対馬に投資をしないから韓国の企業がやってくるだけで、問題はそこではないと思っています。

その点で、先行きははっきりいって非常に暗いです。日本企業、あるいは対馬の企業が観光面でしっかりと投資をして、受け入れを充実させていくということに関しては、島内でも、あるいは我々もすぐにいい方向に行くとはあまり思っていません。一方で、ビジネスの側面以外で、例えば比田勝の地域ですと、地域住民の方々と、総務省の集落支援員という東京から来た若い子たちが、韓国人観光客との交流会を始めて、お金にならないかもしれないが、町が活気づく場をつくって盛り上げようとしているような取り組みは、つい最近始まったばかりです。

○司会者 つぎは松中さんに最後の質問ですが、今度はシンプルです。学校教育の望ましいあり方についてお伺いします。

○松中 子供の自殺率が6倍という話もしましたが、やはり一番センシティブな学齢期が、自分がLGBTであることに気づき始める時期で、すごく不安定です。その時に周り

の雰囲気や間違った情報によって、いじめが起きてしまうこともあります。今の日本の教科書でも、まだLGBTのことはそこまで触れられていませんが、「…9歳～13歳くらいのとき（中略）異性のことに興味をもつ、好きになるのが普通であり…」と、実はまだ書いてあるんですね。そういうのをみると、じゃあ自分は普通じゃないのかも、とってしまうのが教科書ですから、先生がそこに一言「ここには普通と書いてあるけれども、そうじゃない子もいるんですよ」と添えられるかどうか、これは先生の経験とか知識によってしまうのですが、日本ではまだそのレベルです。

アメリカでは、親御さんがLGBTだというご家族もふえているぐらいなので、結構教育は進んでいますが、学校と家庭が教育で分断されるというよりは、そこは地続きになっていて、特に家庭でみるテレビや映画などのメディアから入ってくる情報が学校内の教育にもすごく影響を与えているという研究結果があります。『グリー』というテレビドラマがあり、いろいろなマイノリティの方々が登場して、一人一人の個性として、生き生きと登場してくるという内容なんですけど、それが教育現場でもサンプルとして使われていると聞いたことがあります。

僕も子供のころ保毛尾田保毛男が登場してLGBTを知ったように、やはりメディアから入ってくる情報もすごく多いので、そういうことに気をつけて、いいサンプルとか、いい教材としてメディアの情報を出していくのがいいと思います。金八先生で上戸彩さんが、トランスジェンダーの役で登場しましたが、あの後一気に、日本じゅうで性同一性障害という言葉が広がり、概念も広がったように、メディアのパワーはすごく強いと思います。

あとは、LGBTと学校教育という話になると、どうしても当事者の子をケアする方向にいきがちなんですけど、僕がはっとしたのは、知り合いが、自分の子供がもし当事者だったら、ちょっと戸惑うけれども親として受けとめたいけれども、一番受けとめられないのは、自分の子供が、友達をLGBTだからといっていじめたりする、これは親として一番悲しいと言っていました。当事者のことというよりも、当事者と一緒にいる子供たち、その場にいるみんなにとっての教育なんだということを伝えていきたいなと思います。

○司会者　　今度は花松さんに最後の質問ですが、対馬をはじめ世界じゅうにいろいろあるボーダー地域で、文化が混ざり合っているような事例はありますか？という質問です。

○花松　　そうですね。混ざり合うという表現に合っているのかはわかりませんが、対馬の中にも、例えば、地名とか名前が明らかに日本ぽくないところはあります。そういうと

ころを掘り起こして、混ざり合っているというアピールをすることは一つあり得ると思います。

しかし、日本の国境地域って、混ざり合っているようで、実はあまり混ざり合っていないんです。具体的にいうと、例えば韓国語がペラペラな対馬人って、あまりいないんですよ。朝鮮半島と長いことやりとりをしてきたにもかかわらず、ほとんどいない。与那国に行くと、台湾語、中国語がしゃべれる人もあまりいません。稚内ではロシアの船員さんの相手をしている人たちが多少はロシア語を話すかもしれませんが、一般人やおじいちゃん、おばあちゃんでもロシア語しゃべる人はあまりいません。

なぜかというとおそらく、かつて日本が帝国主義だった時代、かなり勢力圏を拡大したにもかかわらず、敗戦したときに、領域がシュリンクします。そこで現在の日本から取り残されてしまった、例えばサハリンや北方領土、釜山、あるいは台湾といった地域には、日本語を話せる人はたくさんいる。

国境地域はあっち側とこっち側のインターセクションで、そこに、両者をうまくトランスレートする人は絶対に必要なはずなんですが、その人が現在の日本の領域内にいない。むしろ外側にいる。台湾とか釜山は、街並みにしてもかなり日本の色が濃く残っていますよね、でも日本の領域内での国境地域に混ざり合っているエリアがなかなかない。けれども、私はまさにそう混じり合うような空間を対馬につくりたいと思っています。対馬に来れば、それは日本であり、あるいは対馬らしさがあるいっぽう、日本にいながら韓国っぽいものが同時に感じられるような、日本のほかの地域では絶対に経験できないようなものを対馬で感じられるようになれば、それをつくり込んでいけば、ボーダーツーリズムの戦略としてはいいのではないかと思います。